

あったかいが いいね

シャローム横浜通信

1月号



2023年(令和5年) 1月号(第269号)

人との関わり

寒気いよいよ厳しい今日この頃ですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？

シャローム横浜では玄関周りや各階フロアーにクリスマスツリーの飾り付けが施されており、中庭にはツリーが設置されました。色とりどりの装飾はご利用者や地域の皆様の目を惹き寄せ、季節を感じさせてくれます。なかなか外に出られない方々にとっては楽しみの一つとなりますので、季節に合った飾り付けは生活する上で欠かせないものであると実感しております。

前回の12月号でお伝えしたシャローム横浜における面会方法の変更についてですが、最近の新型コロナウイルス感染症増加と法人内の事業所2か所でクラスターが発生した影響で、面会方法を直接面会からパネル越し面会に11月24日から変更いたしました。直接触れ合うことをご利用者・ご家族の笑顔が溢れていましたので、非常に残念ではありますが、当の間は仕方がないと感じています。インフルエンザも含めて感染が落ち着きましたら、直接面会を再開したいと心より願っております。

また、シャローム横浜では感染症予防対策により、令和2年度から実習生を生活の場に受け入れておりません

中庭のツリーです



でしたが、この度ようやく受け入れを開始することができました。今回は高校2年生2名を受け入れましたが、初めての現場で多くのご利用者とは違ったことで、大きく成長できたのではないかと感じております。現場実習は、机上で学んでいる内容を現場で確認することができ、人と人が直接触れ合うことで具体的なイメージができてきます。ご利用者の皆様の協力により、将来を夢見ている学生に福祉に対する魅力を感じてもらいたい。希望をもって歩んでいただきたいと思います。切に願っております。

様々な方々に関わっていただきながら、シャローム横浜が「あったかい」場所になることを目指しつつ、新しい年を歩んでまいります。

新年も皆様にとって、希望の持てる年となりますようお祈りいたします。

施設長 高原 信夫

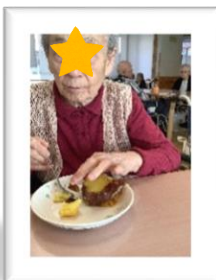
4階 《焼き芋》

4階フロアーでは、昨年と同様に10月末のおやつ時間に焼き芋を行いました。

今年のさつま芋も安納芋という種類で、大きく甘く、とっても好評でした。

美味しい物を食べて、ご利用者の皆様はとってもいい笑顔でした。来年も行いますので楽しみに！

4階主任 宮沼 孝志



第269号

令和4年12月15日発行
(毎月1回 15日発行)

責任者：施設長 高原 信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集委員

小林・荒金・石橋
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



《免疫力を高めよう》

いよいよ冬到来です。

様々な感染症が起きる季節です。感染症対策として手洗いの徹底はもちろんですが、感染予防に有効な免疫力を高めることも大切です。

睡眠をしっかりとり、ストレスをためない、身体を温める、栄養バランスを考えた食事を摂る等、免疫力を高めるために規則正しい生活を送ることが大切です。

普段の生活を見直して免疫力を高めるように意識しましょう。

医務室課長
中村 牧子



【シャローム中庭の
みかんの写真です】⇨



☆皮膚や粘膜を強くするビタミンC☆



食事サービスより

食事サービスでは月曜日から金曜日に地域の各御家庭に夕食をお届けしております。調理や盛り付けはすべて手作業にて心を込めて作っております。

ご利用の皆様からは「大変おいしい」とのお声をたくさんいただいております。ご興味のある方はいつでもご相談ください。

食事サービス主任 遠藤 洋子

「断捨離の効果？」

第177回 チャプレン 上前 至

「断捨離」がはやっている。私の家内も、その類にもれず最近しきりと家に残った整理しきれていないものの整理に余念がない。「断捨離」とは、もともとは仏教の、それも禅宗の教えからきているらしい。「断行」「捨行」「離行」という行いを伴う修行の一種からきており、それぞれの「行」はそんなに簡単な業ではないという。ここでは、そんなに難しいことはいわずそれぞれの「行」を三つ合わせた「業」として「断捨離」ということになったという位で留めておく。その定義は「モノを捨て片付けることで心のガラクタもスッキリ整理し人生をご機嫌に変える方法」としておこう。

実はそういう私もこの「断捨離」のお陰で最近人生をご機嫌？に変えられた経験をした。というのも今年も年末になり家内が例年になく「断捨離」に励んだ結果？思いもかけない貴重品を発見

したのである。それは50年前、私と家内が結婚した時に、私の父親が私宛に書いてよこした直筆のメッセージであった。そこに一つの引用文が書かれていた。それはヘルマン・ヘッセの言葉である。『辛抱強い愛を以って自分に対し、又、人に対し、そして本来あるべき自分に帰れ』と。特に最後の言葉『そして本来あるべき自分に帰れ』という言葉は私の胸に響いた。50年前には余り気にも留めていなかった言葉であるが、今の私にはこの言葉が胸に響いたのである。私はこの50年、本来あるべき自分に帰って歩いて来たかどうか。年末の時を迎える今、この言葉をかみしめて新しい年を迎えたいと願う。

伝道の書3:11節

